

「名ばかり」でない「結果の出せる本当の職業人」を目指す皆様へ
ー我が社、我が街から失業者を一名も出さないために④ー

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

自分自身が失業者にならないための方法とは何か、自分の所属する団体(営利、非営利を問わず)から失業者を出さないための方法とは何か、更には、他からの失業者を吸収するための方法とは何かを今回は「本当の職業人とはなにか」という視点から考えてみたい。

2. 本当の職業人とは何か

①毎回引き合いに出して恐縮だが、最もわかりやすいので例を医師にとってみよう。A という近くの医師に月に何回か数年通っていたが一向によくならなかった。知人から B という医師は評判がいいよと教えられたので、長い間お世話になっていた A 医師には申し訳ないなと少し後ろめたい気持ちもあったが、もしかしたらという気持ちも働き、とりあえず B 医師を訪ねた。結果、1 ヶ月もたたないうちに症状はよくなった。その後 B 医師の指示通りに生活をしたら再発もしない。その患者さんは大喜びし、B 先生はよくなると同じような病気で長い間医院に通いつめている知人に教えてあげるのも人情。教えられた人は、私もあやかりたいと B 医師の門をたたき、又症状がよくなる。B 医師は名医の誉れを得、患者はひきもきらない。一方、A 医師にはかからない方がよいという評判もたち A 医師の病院の前にならぶ患者は激減。いつ閉鎖に追い込まれてもおかしくない状況になった。

②このように医師に期待されるのは、病気を直すこと、ただこれ一点である。故に、病気を直すことのできる医師は栄え、病気を直すことのできない医師は亡びる。結果が出せる出せないですべて決まる。

③では、どうしたら「結果の出せる医師」になることができるだろうか。大学での6年間の基礎教育を受けた後、国家試験に合格し、2～3年どこかの病院に勤めただけでは、「結果の出せる医師」にはなれない。その後開業医になるか勤務医になるかを問わないが、国家試験合格3年後、つまり一人前の医師と一般の人から呼ばれるようになってから、自分の選んだ専門分野についてどのような「体系的」な勉強をするかで、「結果の出せる医師」になれるか否かが決まる。(それまでは、単に医師という職業に就いたにすぎない。つまり、職業上の名前をもらったにすぎない。もちろん結果は出せない)。

④「名ばかりの医師」が、結果を出せる本当の職業人としての医師になれるかどうかは、国家試験合格3年後からの勤務後と休日の過ごし方ですべて決まる。具体的にいえば毎日の勤務後2～3時間、休日なら5～10時間は何らかの形で、現在自分の担当する専門分野の技術向上のための「体

系的な」勉強に時間を使うべきである。これを 5 ～ 7 年継続してはじめて「結果の出せる医師」になることができる。つまり、国家試験合格後 3 年間だけでなくその後 7 年間の合計 10 年間は休みもなく眠る暇もおしんで専門分野の技術の向上だけを目指し一心不乱に「体系的な」勉強に励んではじめて「結果の出せる医師」になれるということだ。結果の出せない「名ばかりの医師」から一日も早く脱却することが、すべての医師に課せられた社会的責務といえる。

⑤結果の出せない「名ばかりの医師」は、人々の身体に傷害を与えかねないばかりか、国家財政を赤字においやる原因にもなりかねないと考えられる。どんなに早くても 35 歳までは、血のにじむような専門分野についての「体系的な」勉強を一年 365 日しつづけなかった医師は、決して結果が出せない。

⑥今後、デフレ経済がつづく、人々はどこにお金を出すかについて慎重になり、徹底的に支払先を選択するようになる。私は、保険料率をもっと安くし、逆に自己負担分を全国一律 50 パーセントまで引き上げれば、国民は本当に「結果の出せる医者」のみ選択し、又、必要最少限しか医師にかからなくなると考える。(所得の低い人には手当を支給し、必要な場合は医者にかかるだけの収入を得させれば、医師にかかれず病状を悪化させることが避けられる)。少子化高齢化社会を迎え医療費で国家財政を破たんしにまで追いやることもこれで防げるのではないかと思うくらいだ。

⑦一度、結果の出せる本当の職業人としての医師になれば、あとは追加の知識や技能を「体系的に」補給するだけで、85 歳以上になっても十分結果を出しつづけることができる。35 歳からの 50 年間のために、国家試験合格後の 10 年間だけは何が何でも休むことなく毎日勉強して欲しい。

⑧仕事が終わったからといってファミコンに走ったり毎晩アルコールを飲み、カラオケに行き、毎週のようにゴルフやスキーに行きたければ、結果の出せない「名ばかりの医師」でずっといることが明らかである。このようなハードな勉強に耐える自信のない方ははじめから生命や身体をおあずかりする医師は志すべきではない。免許をとっていても勉強する自信や気力のない方は、医師の国家資格も即刻国家に返上すべきである。

⑨長々と医師を例にあげ説明させて頂いたが、これを読み皆様、とりわけ医師の皆様はどうお感じになったであろうか。国家試験合格後 10 年間 365 日勉強しつづけてこられなかった方は、現在何歳であろうと今からでも遅くないから、是非心を入れかえて、すべてのことをなげ放ち、これから 10 年間眠る間もおしんで自分の専門分野の基礎知識をもう一度入れなおしながら、結果の出せる技術の修得「体系的な」勉強に励んで頂きたい。医師の皆さんが全力をふりしぼって専門分野の「体系的な」勉強をしはじめて頂ければ、足利市の医療レベルは現在の 10 倍くらいはすぐに向上する。足利の病院は皆レベルが高くなればどの病院も、全国からの患者であふれ、必要最少限の医療費しか患者さんから頂かなくても、医師の皆様は生活は十二分に安定する。医療関係に就業する人も増加し、医師のレベル・アップが「まちおこし」「足利の活性化」にもつながる。

⑩もし、足利に本当においしいカレー屋さんが 100 軒、200 軒とあれば、全国のカレーファンが足利市に殺到する。

- ⑪もし、足利に本当に英語の教え方の上手な先生が 100 人、200 人と存在すれば、全国の子をもつ親は、足利に居を移し、子どもを足利の学校に通わせる。足利の人口などこれだけでアッという間に 20 万人を超える。
- ⑫本当の職業人つまり職業上の結果の出せる人が 100 人、200 人単位でその町で腰をすえて仕事をしはじめれば、2～3 万から 20 万人くらいの町や市はすぐにでも活性化する。
- ⑬医師に限らず、カレー屋さんも英語の先生も、ありとあらゆる職業の方々もその職業についてから 10 年間石にかじりついても 365 日眠る間もおしんで自分の専門分野の技術を向上させるという唯一の目的のために「体系的な」勉強をして、「結果の出せる本当の職業人」になって頂きたい。
- ⑭これに「期間を決めて、その期間内に結果を出すこと」が加われば更に本当の職業人に近づく。スピードがなければ何の意味のない場合が多いからだ。

3. おわりに

「一点突破、全面展開」ということばがある。失業対策については難しすぎていくら議論しても具体策がなかなか出せないとおっしゃる方が多い。就業してから 10 年間は休むことなくその職業についての勉強を徹底的に行わせる、そのための支援策をありとあらゆる場面で考えるべきだというのが私の具体策である。その詳細な各論は書き尽くせないほどあるので、もし関心のある方は直接お問い合わせ下さい。(TEL0284-72-5945 開倫塾本部事務所まで。不在の場合は、用件と連絡先の電話番号を事務の者にお伝え下さい。もし私に直接面会したい場合は必ず事前に電話で予約をして下さい。本部事務所に私がいるときは、1 分も無駄にすごさぬよう職員との打ち合わせや来客などに時間を使っていますので予約なしの突然訪問は、失礼とは思いますが、原則としてお断りします。)

みなでがんばりましょう。